

- 東海環状自動車道の本巣インター開通に伴う市へのアクセス向上により、森林環境教育やハイキング等の拠点として整備・活用されている「文殊の森」への来場者の増加が期待される。
- 利用者の安全・安心や林地の保全管理に資するため、十分な対応ができない遊歩道・防災道の改修などを行う。

事業内容

【「文殊の森」整備】 主管課：商工観光課

- ・木製階段の更新、堆積土等の除去・路面整備
- ・ささゆり広場の環境整備

【事業費】6,390千円（うち譲与税6,390千円）

【実績】防災道：延長2400m

遊歩道：延長1835m（木製階段173組）

ササユリ広場の支障木除去

取組の背景

- ・「文殊の森」は生産森林組合の所有森林を活用して生活環境保全林として整備され、30年以上活用されてきた。
- ・維持・管理業務の中では十分な対応ができず、木製階段の破損や路面の洗堀、土砂等の堆積が進んでいる箇所がある。
- ・近年、里山では大規模な山火事が増える傾向にある。大雨への懸念も高まっており、防災面の取り組み強化が求められている。

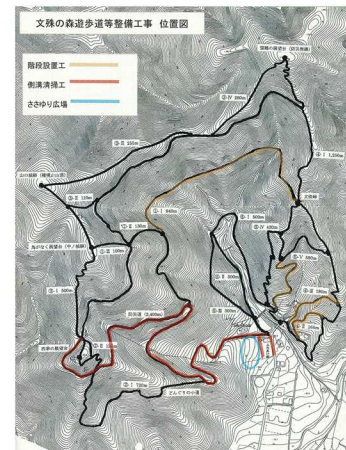


工夫・留意した点

- ・「文殊の森」周辺の森林においても手入れが不十分な里山林が広がっており、地元自治会が県の補助事業を活用して笹類の刈り払いなどを行うことで、この地域全体の里山環境を改善
- ・森林施業の技術があり、地元の森林整備などに携わっている有志やササユリの保護に努めている団体などと良好な関係を築くとともに、市役所内の関係部署とは緊密に連携

取組の効果

- ・施設のPRの広がりとともに、関係人口として「文殊の森」を利用するファンが増えている。
- ・岐阜県内の山城跡や古道を巡って歴史と自然を体感する広域トレイルプロジェクト「美濃國山城トレイル」が本巣市エリアとして文殊の森を対象としている。
- ・文殊の森里山クラブが、自然観察や木工クラフト、ハイキングなどの活動拠点として利用している。



基礎データ

①令和6年度譲与額：66,977千円	②私有林人工林面積（※1）：7,270ha	
③林野率（※1）：85%	④人口（※2）：32,928人	⑤林業就業者数（※2）：45人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 国史跡の指定を受けた船来山では、周辺の森林と一体的に史跡（古墳）の保全や東屋などの利用施設の整備・管理が順次進められる。これらの整備に必要な工事資機材の運搬や管理に供するための作業路を開設
- 史跡が集中するエリアへのアクセス向上と周辺に広がる竹林の整備などを担うランティア団体等が安全に活動できるよう、山麓とを結ぶ遊歩道を整備

事業内容

【船来山整備】 主管課：社会教育課

- ・ 作業路の開設工事
- ・ 遊歩道の整備

【事業費】 23, 135千円（うち譲与税23, 135千円）
 （工事支障木の伐採にかかる経費を含む）

【実績】 作業路：全幅員3.5m、延長200m、砂利舗装
 遊歩道：幅員1.0m、延長150m

取組の背景

- ・ 国史跡の指定を受けた船来山の整備については、市有林の施業等も含まれることから、整備方針等を検討する委員会に林政課職員がオブザーバーとして参加し、譲与税の活用も含めて対応してきた。
- ・ 令和4年4月に告示した本巣市森林整備計画（変更）において、船来山を森林の総合利用施設に位置づけた。



工夫・留意した点

- ・ 史跡指定の対象である古墳が工事に伴って損傷されることがないように切り土が少ない線形・工法を十分に検討し、専門家の同意の下で施工
- ・ 線形の制約を受ける作業路については、縦断勾配が急になったため、路面排水について設計の段階から配慮
- ・ 歩道の階段については、市街地に近い利用施設であり、転落防止柵（手摺り）も併せて整備することから、耐久性も考慮して木製ではなく擬木を使用。

取組の効果

- ・ 多数の古墳が確認されており、利活用の中核となるエリア（O支群）への徒歩によるアクセスが向上
- ・ 船来山の整備や教育活動に取り組むボランティア団体のイベントに岐阜市内の山岳関係団体や愛知県に住む有志が協力し、竹林を整備

基礎データ

①令和7年度譲与額：66,977千円		②私有林人工林面積（※1）：7,270ha	
③林野率（※1）：85%		④人口（※2）： 32,928人	⑤林業就業者数（※2）：45人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より